

# 暘谷駅周辺地区

(大分県日出町)

計 画 期 間 平成 18 年度～22 年度

面 積 44.1ha

交付対象事業費 613 百万円

市人口 28,423 人 (地区内人口 1,606 人)

**ポイント** 「日出町」の顔となる賑わいのあるシンボル空間の形成と自然や歴史的文化遺産を活かした街並みの創出

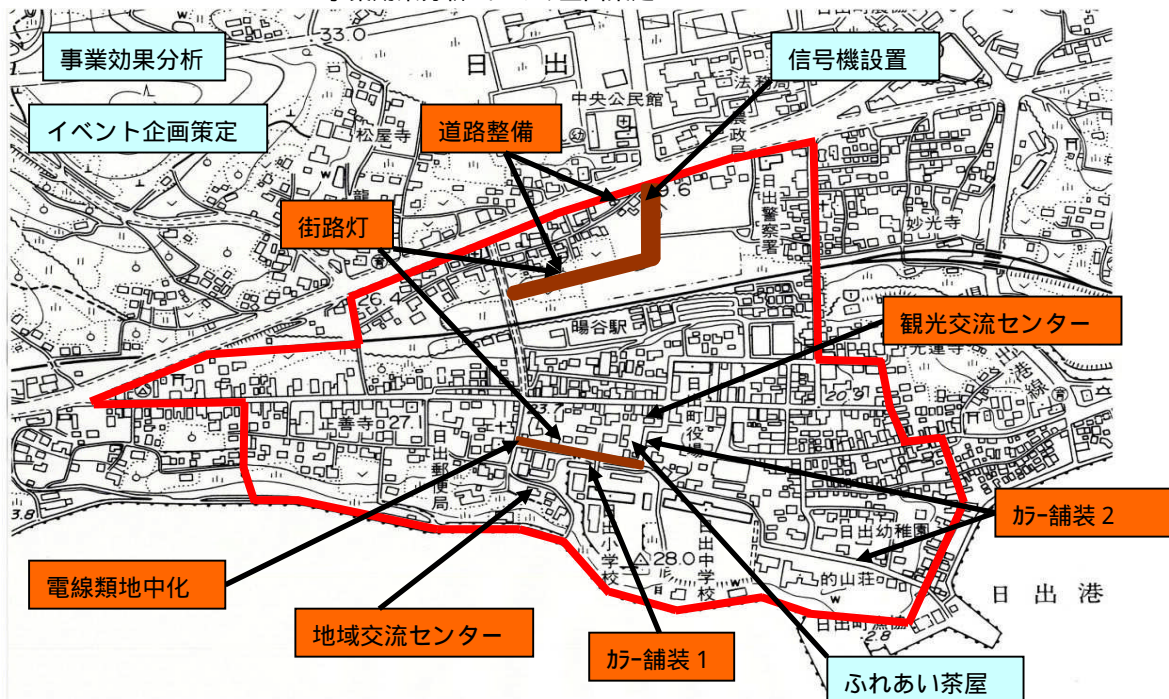
**地区概要** アクセス道路の整備により、町の交通結節点として交通利便を図る。また、観光交流センターや地域交流センターを併設した景観道路の整備により、集い・交流する賑わいの空間を図る。

**目 標** 自然や歴史的文化遺産を活かし、これらが利便性の高い都市環境とともに相互に結びつく賑わいのあるまちづくり

**指 標** 駅周辺の交通結節点の整備及び、城趾周辺の道路、広場、観光交流拠点の整備による歴史的風情ある空間の演出や、イベント等の開催により、観光客数、イベント参加者数、交流人口の増を目標とする。

観光客数	41,000 (H16)	50,000 (H22)
地区内人口	1,538 (H16)	1,580 (H22)
イベント参加者	386 (H17)	600 (H22)
駅前交流人口	1,540 (H15)	1,700 (H22)

**事業内容** 基幹事業(583 百万) ・道路整備(幅員 20m、延長 311m)・カー舗装 1(延長 160m、面積 960 m<sup>2</sup>)  
 ・街路灯(13 基)・カー舗装 2(面積 1880 m<sup>2</sup>)・緑地(面積 1150 m<sup>2</sup>)  
 ・電線類地中化(延長 180m)・観光交流センター(1 箇所、1441.78 m<sup>2</sup>)  
 ・地域交流センター(1 箇所、98.9 m<sup>2</sup>)  
 提案事業(30 百万) ・信号機設置(5 基)・ふれあい茶屋建設(191.59 m<sup>2</sup>)  
 ・事業効果分析・イベント企画策定



## 地区の現況と課題

本地区は、平成9年の大分県立日出暘谷高校の移転に伴い、跡地を中心としたJR暘谷駅周辺の有効活用が重要な課題となってきた。

現在、日出町には町の玄関や顔となる明確な中心核が不明瞭であることから、高校跡地を有効に取り込みながら、市街地整備を行っていく必要がある。また、暘谷城趾を中心とした古い街並みや歴史的な建造物等、風情ある空間が残存しており、歴史的風情ある町並みをいかにしながら観光交流や地域交流をおこなっていく必要がある。

## 基幹事業の特徴

### 道路整備

JR暘谷駅周辺を日出町の交通結節点として位置付けることを目的にアクセス道路を整備し、交通及び歩行者の利便性を図り、集い・交流する賑わいの空間を形成。

### 観光交流センター

日出町の観光情報の拠点・観光交流を目的に整備をおこない、来訪者と地元住民が触れ合えるスペースを確保する。

### 地域交流センター

現存する歴史的建造物である隅やぐらを暘谷城趾周辺に移築・復元し、歴史的空間を図るとともに、地域交流の場・生涯学習の場として活用する。

### 電線類地中化・カー舗装

当時、暘谷城大手門前の道路を歴史的街並み景観に配慮し、カー舗装や無電柱化をおこなうことにより、高質空間を図る。

### カー舗装

来訪者や地域住民の回遊性を高めることを目的に、歴史的街並みに調和した舗装をおこない、高質空間を図る。

## 提案事業の特徴

### ふれあい茶屋建設

来訪者や地域住民がふれあえるよう休憩スペースや喫茶スペースを整備する。

### 信号機設置

交通及び歩行者の安全性、利便性を図ることを目的に、信号機の設置をおこなう。

### イベント企画策定

まちの活性化を図る為、地元 NPO 等によるイベント企画を策定し、地域住民との協働によるまちづくりをおこなう。

## 計画策定プロセス

歴史的街並み整備においては、地元の方々や建築士のグループによりそれぞれ提案があり、その提案に基づき計画を進めてきた。

また、暘谷高校跡地においては、住民を含めた百人委員会や町議会による特別委員会等設置しながら、整備手法等協議してきた。



未利用となっている日出暘谷高校跡



二の丸南浜線 整備前



二の丸南浜線 完成イメージ図



観光交流センター イメージ図